

「教えるって楽しい!!」

東京都小学校外国語研究会 (TEFLEA)

副会長 三田 祐太

1、教職の面白さ

「学校は面白いところ、将来この面白いところで働けたらどんなに幸せなことか。」と思ったことが教職を目指すきっかけでした。そのような気持ちにさせてくださったのは、自分の小学校時代の担任の先生です。まだ若い先生でしたが、先生との学校生活は毎日が楽しいという記憶しかありません。ただ楽しいだけではなくて、様々なことを考えて、様々なことに取り組めたことが楽しかったです。例えば算数の授業では、先生は冒頭で一問だけ問題を出してあとは教室の後ろに座っています。私たち児童は、代わる代わる黒板へ行き、その問題の考え方を発表します。自分の言葉で説明し、議論し深め合う授業は45分があつという間でした。水泳が得意だった先生は、「先生に平泳ぎで勝ったらお楽しみ会の時間をとってあげる。」と言いみんなに挑戦してきた時もありました。水泳を習っていた私はクラスのみなみに推されて競争することになりました。前半はリードしていて「勝った!」と思った瞬間先生が猛スピードで追いついて負けてしまいました。全員でがっかりしていると、「負けたことを責めずみんなで協力して応援できたからお楽しみ会をしよう。」と言ってくれました。私は一躍クラスのヒーローになり、給食の牛乳で乾杯をしたことを覚えています。「こんなに楽しい場所で大人になった時みたい。」と真剣に思えるようになりました。

実際に教員になっても、その先生は現役で担任をしています。数年に一度はお会いし教育論を語り合っています。私にとって幸せな時間です。過去も現在も未来も仕事の楽しさを味わえるこの仕事は本当に魅力的な職業です。

2、これからの教育

昨今の教育は、内外で様々なことが言われています。「いじめ問題、長時間労働問題、教員不足問題」挙げたらキリがありませんが、その反面「教科担任制、働き方改革、給特法の見直し」文科省や各教育委員会も改善しようと努力しています。よりよい教育環境を整える動きはこれからも加速していきます。これから教職に就こうとしているみなさんにとって少しでも良い環境になれるよう、国も都道府県も必死に考え実行しています。安心して教育界に飛び込んで来て下さい。

教職の概論ばかり述べてきましたが、外国語教育についての話です。小学校中学年で週1時間、高学年で教科化になり週2時間が全国規模で着実に浸透しました。学習指導要領や教科書、デジタル端末など様々な整備が行われてきました。指導法についても同様です。学術的な学会や、実践事例研究をメインとした研究会など様々な視点から小学校外国語活動・外国語を発展させていこうとしています。これからは小学校で外国語教育を受けた方が教員になっていく世代に突入します。新しい外国語教育を開発していくのは、これから教員になる皆さんです。新しい経験をもった方が新しい視点をもって、新しい教育を作っていきましょう。

3、学生のみなさんへ

これまでの話のまとめになりますが、「教職は人が人を育てるかけがえのない職業」です。教育がうまくいかで、日本の将来は変わります。世界や地球の将来も変わります。そんな無限の可能性をもった職業を目指しているみなさんはすでに素晴らしいです。大学の授業や採用試験に向けて様々な困難なことがあるは思いますが、今抱いている「教師になりたい」という熱い思いを忘れずに学生生活を送ってください。

そして教師になる前に、できるだけ様々な経験をしてください。教師は人間力が問われます。今までのどんな人生を送ってきたかで、出てくる言葉や態度は変わります。一見教職に関係ないような経験や体験が教職に就いたあとに、とても大きな力を発揮することがかなりあります。

特に外国語教育に関心がある方は、学生にうちに外国文化に触れてください。自分自身が外国語の方とコミュニケーションをとる時に困ったこと、嬉しかったこと、もっと話したいと思ったことを経験できれば、必ずいい授業ができる教師になります。机上の指導法だけでは、子供たちから魅力に感じられる教師にはなりません。ぜひ、世界全体に目を向けて新しい外国語教育を確立していきましょう。令和の子供たちを教育してくださる方を一人でも多くお待ちしております。